

キハ 110 系

JR 東日本初期の気動車

キハ 120

国鉄の分割民営化直後、JR 各社から、老朽化した国鉄型車両の置き換えとして新形式が数多く登場した。気動車では、JR 東日本のキハ 110、JR 東海のキハ 11、JR 西日本のキハ 120 などである。そのうちキハ 110 系(キハ 100 を含む)について、紹介しようと思う。

キハ 110 系は、キハ 20 系などの置き換え用として、1990 年に登場した。もともと、キハ 100 が普通列車用、キハ 110 が急行列車用として製造されたが、キハ 110 も 100 番台以降は、普通列車用として製造されている。キハ 110 の 2 両編成がキハ 111+112 である。なお、最初は、前面がブラックフェイスであったが、すぐに現在と同じ塗り分けとなっている。車内の座席配置は下の表に特記したものを除き、ボックスシート 2 列+1 列で一部がロングシートとなっている。

キハ 110 系は番台などによって多くの種類に分けられる。分類が多く複雑なためここでは表を用いる。



▲キハ 100 の 1 次車。パイプスカートである



▲キハ 111 の陸羽東線色。色やロゴが異なる

キハ 100、110 の主な分類

			ドア	車体長	塗装	主な特徴		
キハ100	キハ100	1-4	プラグドア	16.5m	一般色	パイプ		
		5-8					スカート	
		9-46						
		201-205						
	キハ101	1-13	引き戸	17m	左沢線色(水色)		オールロングシート	
キハ110	キハ110	1-5	プラグドア	20m	一般色	パイプ	急行用(回転クライニングシート)	
		101-139						
		201-210						
		211-222	引き戸	20.5m				
		223-236					もと300番台	
		237-239				陸羽西線色(黄帯)※		
		240-242				陸羽西線色(黄帯)		
		243-245					眺望仕様※	
	キハ111,112	キハ111,112	1-3	プラグドア	不明	一般色	パイプ	急行用(回転クライニングシート)
			101-121					
			151-152					
			201-210	引き戸				
			210-212					もと300番台
			213-217				陸羽東線色(赤帯)※	トイレは
218-221	陸羽東線色(赤帯)	車端部						
※新造時(300番台は200番台への改造後)								
※キハ101と112はトイレ無し				※眺望仕様は片側が1人掛回転式クロスシート				
※キハ110の237-239およびキハ111の213-217は、登場直後は一般色であったと思われる								

このように、様々な種類に分類することができる。途中から車体長が異なるのは、踏切事故対策として、乗務員室を拡大したためである。また、ドアは最初プラグドアであったが、途中からは一般的な引き戸に変更されている。なお、この表も完璧ではなく、製造会社や床面高さなどでさらに細かく分けることもできる。



▲八高線 80 周年記念塗装のキハ 111。現在この車両は、SL ぐんまラッピングになっている。

「改造車」

キハ 110 系は、イベント用として改造された車両が存在する。

① POKÉMON with YOU トレイン

大船渡線の一ノ関―気仙沼間を走る、全席指定の快速列車。種車は、キハ 100 の 1 と 3 で、改番はされていない。車内は黄色基調で、ピカチュウがたくさん描かれており、キハ 100 の 1 はロングシート部分もボックスシートに改造、キハ 100 の 3 は座席を全て撤去し、フリースペースとなっている。大船渡線以外にも、JR 東日本の各線で臨時列車として走ることもある。なお、登場時は水色基調で様々なポケモンが描かれていたが、現在は黄色基調でピカチュウのみが描かれている。

② TOHOKU EMOTION

八戸線の八戸―久慈間を走るレストラン列車。種車は、キハ 110 の 105、キハ 112 の 2、キハ 111 の 2 で、それぞれキハ 110 の 701、キハ 112 の 701、キハ 111 の 701 に改番された。外装は白色でレンガ調模様を表現し、車内もキッチンが設置されるなど大きく変わっている。今のところ、パッケージツアーのみでの運転であり、一般の乗車はできない。

③ おいこっと

飯山線の観光列車として、長野―十日町間を結ぶ全席指定の快速列車。TOKYO を反対から書くと「OYKOT」、これを「おいこっと」と読んで、東京の反対、つまり田舎を表している。種車はキハ 110 の 235 と 236 で改番はされていない。車内は茶色っぽい雰囲気になっているが、座席配置はあまり変わっていない。

④ HIHG RAIL 1375

小海線の観光列車として、小湊沢―小諸間を結ぶ、全席指定の快速列車。名前の由来は、小海線(野辺山―清里間)に存在する JR 最高地点の標高 1375m から。種車はキハ 100 の 29 とキハ 110 の 108 で、改番によってそれぞれキハ 103 の 711 とキハ 112 の 711 となった。車内も大きく改造されている。

このほか、室内はそのままだが、ラッピングが施された車両が存在する。

「300 番台とは」

秋田新幹線の開業に向けた、田沢湖線の改軌工事に従い、田沢湖線の代わりに北上線経由で北上一秋田間に特急を走らせることとなった。その特急用として登場したのが、キハ 110 300 番台である。室内はリクライニングシートで、特急用気動車としては、JR 東日本唯一の新製である(現在、JR6 社のうち JR 東日本のみが、気動車特急を走らせていない)。1 年

間の活躍の後、秋田新幹線開業に合わせて、一般の 200 番台に編入され、室内や塗装もほかのキハ 110 と変わらないものになっている。

「現状」

東日本大震災により、キハ 100 の 9,12,30,38 が廃車となっている。また、2015 年の山田線での土砂崩れによって、キハ 110 の 132 が廃車となっている。そのほか、前述の改造によって、一部で改番が行われている。

「今後」

キハ 110 の増備終了後、JR 東日本では、キハ E130、キハ E120、HB-E210 系などの気動車が製造されている(ハイブリッド気動車を含む)。キハ 110 は、初期に製造されたものだと、車齢 30 年となる。鉄道車両は 30~40 年程で廃車になることが多く、そろそろ置き換えの話が出てきてもおかしくはない。ただ、現状、新潟地区と秋田地区にキハ 110 より古いキハ 40 が残っており、2020 年度を目途に置き換えると発表されている。キハ 110 は、あと数年は安泰であると考えられる。

「まとめ」

キハ 110 系はキハ 40 などの国鉄型車両と比べると、地味なイメージがある。しかし、実は、奥深い形式なのである。東北を中心に活躍する車両であるが、首都圏でも八高線で走っているので、ぜひ乗りに行ってみよう。

「参考文献」

鉄道ファン「No.682 2018 年 2 月号」

JR 編成表、配置表

[http://sirasagi683kei.wiki.fc2.com/m/wiki/JR 東日本電車・気動車編成表、配置表](http://sirasagi683kei.wiki.fc2.com/m/wiki/JR_東日本電車・気動車編成表、配置表)

東日本旅客鉄道長野支社

<https://www.jreast.co.jp/nagano/>

八戸線および新潟・秋田地区への車両新造計画について

<https://www.jreast.co.jp/press/2017/20170706.pdf>

写真は全て筆者撮影